



台所櫓
(重文)

天守
(復元)

高欄櫓
(重文)

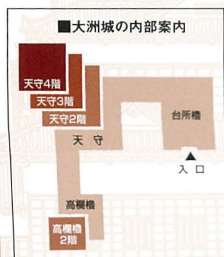
●大洲城

大洲城は明治21年(1888)、惜しくも天守が取り壊されてしまいましたが、4棟の櫓は解体をまねがれ、いずれも国の重要文化財に指定されています。4層4階の天守は、明治期の古写真や「天守雛形」と呼ばれる江戸期の木組模型などの史料をもとに平成16年(2004)に木造で復元されました。



●復元天守の内部

使用した木材は全て国産材。城郭建築特有の迫力ある木組みが見られます。特に1,2階は他の城にない吹き抜けの構築が施されています。



周辺案内図 Area Map



観覧時間

午前9:00～午後5:00 ※礼止午後4:30

Open Hours 9a.m.～5p.m.

休日(無休) Open throughout the year

観覧料

●普通観覧料

大人500円 小人200円(中学生以下)

Admission Adults: ¥500 / Children: ¥200

●共通観覧料(大洲城-臥龍山荘)

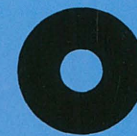
大人800円 小人300円(中学生以下)

Castle and Garyu Sanso Adults: ¥800 / Children: ¥300

1. 保護者の同伴する5歳以下の幼児は無料です。
2. 市内に住所を有する65歳以上の方は無料です。
3. 市内に住所を有し、身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持する方とその付添いの方1名は無料です。
4. 20名以上の団体の方は2割引です。

大洲城：大洲市大洲903番地 TEL0893-24-1146

大洲城



六万石



清流肱川の畔に城が築かれ
多くの武將達が主となった大洲城
その天守が明治期に姿を消して百余年
再び四層四階の木造天守が
威風堂々とした往年の姿で甦った

大洲城年表

Chronological Table of Ozu Castle

元弘元年 (1331)	宇都宮豊房が地蔵ヶ岳に城を築く
天正13年 (1585)	羽柴秀吉の四国平定後、道後湯築城を本拠とする小早川隆景の枝城となる
天正15年 (1587)	戸田勝隆16万石で大洲に入城。宇和郡、喜多郡が領地となる
文禄4年 (1595)	藤堂高虎7万石で板島に入城。大洲は蔵入り地となり高虎が代官となるが、すぐは大洲を居城とする
慶長14年 (1609)	脇坂安治が洲本より大洲に入城。喜多、浮穴、風早三郡において5万石余を領する
元和3年 (1617)	加藤貞泰が米子より大洲に入城。喜多郡、浮穴郡、風早郡、桑村郡などの内6万石を領する
享保7年 (1722)	三の丸南隅櫓焼失
明和3年 (1766)	三の丸南隅櫓再建される
天保14年 (1843)	葎綿櫓再建される
安政4年 (1857)	地震により、台所櫓、高欄櫓が大破する
安政6年 (1859)	台所櫓再建される
万延元年 (1860)	高欄櫓再建される
明治21年 (1888)	海南新聞10月23日付けに、天守の取壊し作業が始まる記事が掲載される
昭和28年 (1953)	大洲城跡が県指定史跡に指定される
昭和32年 (1957)	台所櫓、高欄櫓、葎綿櫓及び三の丸南隅櫓が重要文化財に指定される
昭和34年 (1959)	葎綿櫓の解体修理を完了、土台の石積み を2.6メートルかさ上げする
昭和40年 (1965)	三の丸南隅櫓の解体修理が完了
昭和45年 (1970)	台所櫓、高欄櫓の解体修理が完了
平成14年 (2002)	天守復元工事起工
平成16年 (2004)	天守復元工事完成



藤堂高虎



脇坂安治



加藤貞泰

三の丸南隅櫓
(大洲城現存最古の建物)

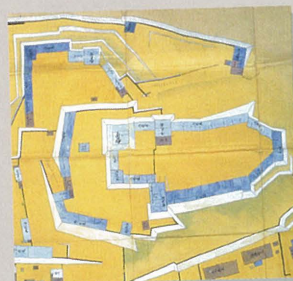
葎綿櫓



台所櫓



高欄櫓

「御城中御屋形絵図並地割」部分
(加藤家蔵)

大洲藩主であった加藤家に残る多くの絵図のひとつ。天守や多聞櫓の間取りが描かれている。

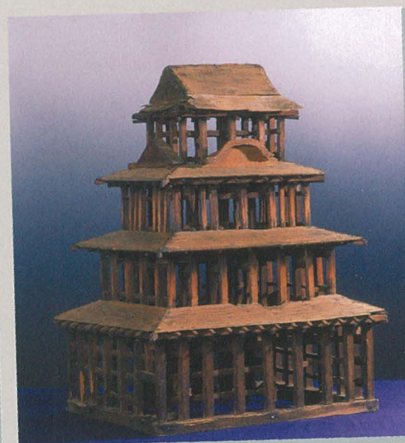


Ozu Castle was fortunate to have photos taken during the Meiji Era along with paintings and a miniature replica of the main tower as it stood in its original state. These historical materials made it possible to reconstruct it as precisely as possible.

天守の復元

Criteria of Restoration Work of the Main Tower

基礎から完工まで史実の考証を重ね、木材の選択、その工法、木組、また、壁、瓦等外部はもとより、内部に至るまで、当時の技術、工具にこだわって忠実に復元されました。



天守雛形(市指定文化財・市立博物館蔵)

大洲藩作事方棟梁であった中野家に残されていた天守の木組模型。天守の構造の概要を知る手がかりとなった。

明治時代に撮影された写真

天守の外観を知る上で、写真は第一級の資料である。大洲城天守は3方向から撮られた写真が残っており、この北面の写真は特に鮮明で石垣の石の形や垂木の本数まで確認できる。

藩の歴史

The history of the feudal clan

大洲藩主一覧

【脇坂家】	淡路洲本より入封	5万3500石 在職期間 1609～1615 1615～1617 信濃飯田へ転封
①脇坂安治(わきざか やすはる)		
②脇坂安元(わきざか やすもと)		
【加藤家】	伯耆(鳥取県)米子より入封	6万石 1617～1623 1623～1674 1674～1715 1715～1727 1727～1745 1745～1762 1762～1768 1768～1769 1769～1787 1787～1826 1826～1853 1853～1864 1864～1871 廢藩置県
①加藤貞泰(かとう さだやす)		
②加藤泰興(かとう やすおき)		
③加藤泰恒(かとう やすつね)		
④加藤泰統(かとう やすむね)		
⑤加藤泰温(かとう やすあつ)		
⑥加藤泰衛(かとう やすみち)		
⑦加藤泰武(かとう やすたけ)		
⑧加藤泰行(かとう やすゆき)		
⑨加藤泰候(かとう やすとき)		
⑩加藤泰済(かとう やすずみ)		
⑪加藤泰幹(かとう やすもと)		
⑫加藤泰社(かとう やすとみ)		
⑬加藤泰秋(かとう やすあき)		

藩政に寄与した家人

中江藤樹(なかえとうじゅ)

初代藩主に仕えながら、儒学に通じ、多くの門弟を生み、その教えは現代も大洲に継がれている。

盤珪永琢(ばんけいようたく)

2代藩主の時、如法寺を開山し、領民の教化につとめた。

川田雄琴(かわたゆうきん)

5代藩主に招かれ、藩校(明倫堂)を興し、民衆教化を3代にわたりつとめた。

257971

普通観覧券

大人500円



※再入場はできません

肱川の畔に城が築かれ
多くの武将達が主となった大洲城
天守が明治に姿を消し百余年……
四層四階の木造天守が
威風堂々とした往年の姿で甦った

大洲城

Ozu Castle